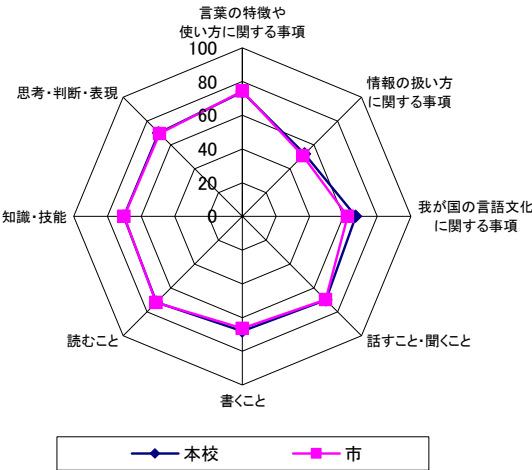


宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.8	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	52.3	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	67.3	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	70.1	69.9	69.7
	書くこと	68.1	66.4	64.6
	読むこと	72.0	72.3	71.0
観点別	知識・技能	70.3	70.1	70.0
	思考・判断・表現	70.0	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

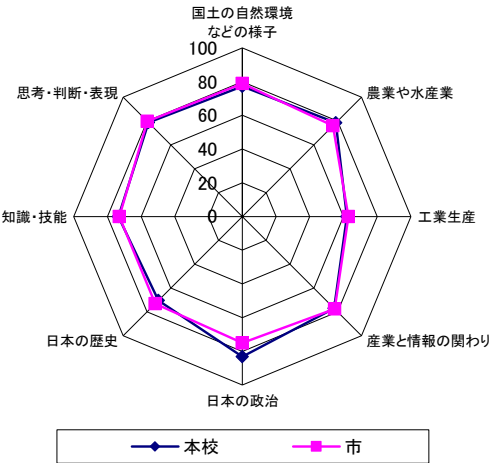
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○5, 6年の漢字の読み・書きに関する設問は、ほぼすべて市平均正答率を上回っている。 ●文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う設問では、市平均正答率を3.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字練習の励行や練習方法の工夫などを引き続き指導する。 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の種別についての復習を行うとともに、日常生活に即した場面設定でふさわしい敬語を用いることができるようにロールプレイで学べるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単にまとめて書くことの設問では、市平均正答率を4.3%上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市平均正答率を1.4ポイント下回った。	・複数の資料からの情報の取り出しや、キーワードをおさえた文章解答の仕方などを授業を通して補うようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○本領域の平均正答率は、市平均正答率を4.9ポイント上回っている。	・漢字の学習や意味調べ等を通して、漢字や言葉に親しむ場の設定をする。
話すこと・聞くこと	○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合いに適した発言をする設問の平均正答率は、市平均正答率を2.6ポイント上回った。 ●計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を捉える設問では、平均正答率は8割を超えるものの、わずかなが市平均正答率を下回った。	・朝の会、帰りの会や学級活動等で、話の聞き方について指導をし、大切な部分はどこかを考えながら話を聞けるようにする。 ・聞き取った内容を要約する力に課題が見られるため、日頃から自分の考えを簡潔にまとめ表現する意識を醸成する。
書くこと	○表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問では、市平均正答率を2.7ポイント上回った。 ●文章を書く設問の無回答率は15.0%にのぼり、文章を書くことに苦手意識をもつ児童が多い。	・毎週日記を書く課題に取り組み、文章を書くことに慣れさせるとともに、表現力を養う。 ・行替えや句読点の打つ位置などの原稿用紙の使い方についても、再度指導する。
読むこと	○説明文において文章の論の進め方を捉える設問では、市平均正答率を4.4ポイント上回っている。 ●物語文において登場人物の心情について、描写を基に捉える設問では、市平均正答率を5.9ポイント下回った。	・読む速度に個人差が大きい。繰り返し出てくるキーワードをおさえることや、問題文に使用される語句と同じ言葉を文章中から拾うなどの基本的な読みの技術が足りないので、読みの指導を日頃から行うようにする。 ・物語文の登場人物の心情を捉えやすくするために、朝の読書の時間や図書室利用の時間を利用して読書に親しむようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	77.2	78.9	75.4
	農業や水産業	78.5	76.1	71.2
	工業生産	62.0	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	77.1	77.6	59.7
	日本の政治	83.2	75.0	79.3
	日本の歴史	70.4	73.1	72.8
観点別	知識・技能	73.5	73.0	71.4
	思考・判断・表現	78.7	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

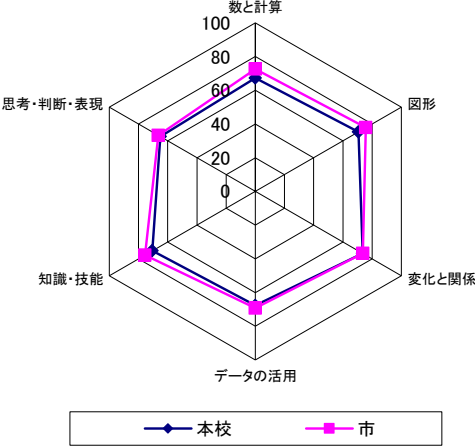
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○日本の主な地形の名称と位置について理解しているかの設問では、市の平均正答率を2.6ポイント上回ったが、正答率は52.3%と低かった。 ●中国の国旗と位置について理解を問う設問では、市の平均正答率を5.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳や地球儀等を用いて、特に日本とつながりの深い国については、正しく国名や国旗を理解し、外国とのつながりに関心をもてるように指導していく。
農業や水産業	○日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取る設問では、84.1%の正答率で、市の平均正答率とほぼ同じだった。資料を読み取る力は付いているといえる。 ●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる設問では、市内の平均正答率を4.7ポイント上回っているが、64.1%の正答率で低かった。	・資料から読み取る力は身に付いている。さらに表現力を高めるために、授業の中で、資料から読み取ったことを文章にまとめたり、地図など図に表したりするなど、考えを自分なりに表現する活動を増やしていきたい。
工業生産	○日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取る設問では、市の平均正答率を若干上回った。 ●大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取る設問では、正答率は49.5%と低く、市の平均正答率も3.3ポイント下回った。	・説明文や図等の資料を参照し、授業の中で適切な説明をする学習を繰り返し行っていきたい。 ・教科書に掲載されている工業統計のグラフを中心に、学習用端末を使用するなどして、児童が興味をもって学習できるような教材の工夫に励んでいく。
産業と情報の関わり	○津波から生活を守る取り組みについて理解を問う設問では、100%という高い正答率であり、防災への理解や関心が高いことが分かる。 ●インターネットを利用するときの注意点について理解しているかの設問では、市の平均正答率を2ポイント下回った。	・調べ学習を行う際、インターネットを使用する上で必要となる情報リテラシーについても繰り返し指導を行っていく。
日本の政治	○いずれの設問においても市の平均正答率を大きく上回っている。特に日本国憲法の三原則や非核三原則について理解を問う設問では、どちらも市の平均正答率を11ポイント上回った。	・政治に最近のニュースを話題にするなど、身近な具体例を交えながら関心を高める指導を行うようにする。
日本の歴史	○飛鳥時代の出来事について理解を問う設問では、市の平均正答率を7.6ポイント上回った。 ●弥生時代のむらの様子や人骨の資料に着目して、弥生時代の人々の暮らしを捉え表現する設問では、正答率68.2%で、市の平均正答率を9.9ポイント下回った。 資料から弥生時代のむらの様子を読み取り、指定された「むら」「食料」の2つの言葉を使って書く設問を苦手としている児童が多い。	・資料集等にある多彩な資料や歴史上のエピソードを紹介したり、学習用端末を使って動画の説明を視聴したりするなど、分かりやすく、歴史自体に親しみをもてるようにする。 ・授業の終わりに、めあてに沿った一時間の学びを自分の言葉でノートにまとめさせる。教科書に出てくるキーワードを文章の中に用いて、各時代における政治や文化の様子を文章に表現する指導に努める。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.3	72.6	73.1
	図形	70.7	75.7	74.7
	変化と関係	73.5	73.6	66.1
	データの活用	67.6	69.2	70.7
観点別	知識・技能	70.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	65.0	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

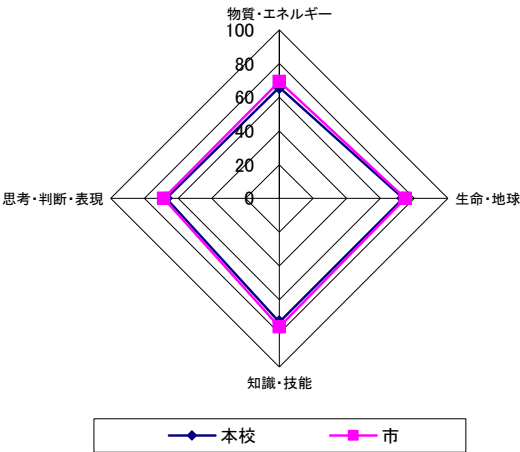
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「小数の乗法の考え方を基に、整数×分数の計算のしかたを考え、説明すること」では、市平均正答率を2.7ポイント上回った。 ●ほとんどの問題において、市平均正答率を下回った。特に、分数に関する問題3問において、全て市平均正答率を10ポイント以上下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・家庭学習において、ドリル等を使った反復練習を積極的に行い、どの分野においても幅広く理解を深められるようにする。 ・分数の計算については、5年生から続く内容なので、単元の初めに復習の機会を十分にとり、苦手意識を低減させられるようにする。
図形	○「三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を理解すること」では、校内の正答率が86.0%と高い正答率であった。また、「合同な三角形を三角形を作図すること」でも、校内の正答率が83.2%と高い正答率になっている。 ●「点対称な図形について理解すること」では、校内正答率が68.2%と、市の正答率と比較して10.4ポイント下回った。また、「線対称な図形の対応する点を見つけること」では、校内の正答率が44.9%と課題が残った。	・線対称や点対称の図形の性質や作図の方法について、実際に図形を作っていく中で体験的に理解させる活動を通して、理解を深められるようにする。 ・それぞれの図形の性質を比較してまとめる活動を行うことで、知識を定着できるようにする。
変化と関係	○「表から面積と人数の割合を求め、どの公園が最も混んでいるかを考察すること」では、市の平均正答率を3.3ポイント上回った。 ●「速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直すこと」では、市の正答率を8.3ポイント下回った。さらに、校内の正答率が48.6%と、半数以上が理解が不十分であることが分かった。	・単位量当たりの大きさや速さは、5年生の学習内容であるが、苦手意識をもつ児童が多いため復習の機会を設ける。 ・単位換算の法則を理解するために、身近な場面に置き換えて考える活動を取り入れることで、苦手意識の克服につなげていきたい。
データの活用	○「度数分布表を完成させること」では、校内の正答率が86.9%と高い正答率であった。 ●「ドットプロットから、最頻値を読み取ること」では、市の平均正答率を6.7ポイント下回った。また、「代表値を用いて、えみさんの記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明すること」では、市の正答率を4.6ポイント下回った。	・最頻値や中央値などについて、自分たちの学級で実際にアンケートを取った結果から問題を解くなど、身近なところから考える活動を取り入れるなどして、理解を深められるようにする。 箇所

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.9	69.3	65.7
	生命・地球	73.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	73.4	76.2	76.4
	思考・判断・表現	67.0	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「電磁石と棒磁石に共通する特徴を指摘すること」では、市正答率を2.2ポイント上回った。 ●「ふりこのきまりの実験を計画すること」では、市正答率を8.8ポイント下回っている。 ●「ろうそくの火が消えた理由についての考察を改善し、記述すること」では、市正答率を7ポイント下回った。	・各単元の実験の際には目的を明確化し、なぜ実験をするのか、その実験を通してどんなことを知りたいのかなど、具体的にイメージをもちながら計画を立てることができるようにする。 ・実験の計画から考察までの流れをルーティン化することで、学習への抵抗感の軽減を図る。 ・他の班や教科書と同じ結果にならなかった場合、その理由を考える活動も取り入れ、考察力を養う。
生命・地球	○「天気の変化」に関する問題では88.6%、91.6%と共に高い校内正答率となっている。 ○「植物の葉のでんぶんをつくるはたらきと日光の関係を調べるために、対照実験を行う理由を推測すること」では、市正答率を4.7ポイント上回った。 ●「メダカが水の中の生物を食べていることを理解すること」では、市正答率を7ポイント下回った。	・良好な状況が見られた分野に関して、個別の声掛けなどを積極的に行い、より自信をもって学習に取り組むことができるように支援する。 ・実験や観察などを通して実際に事象を確認することが難しい学習内容に関しては、ICT機器や動画資料等を積極的に活用し、理解を深めることができるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを書かせて説明させるなど、多様な言語活動の工夫	課題への事前アンケートや発問に対する考えの表出、調べたことをまとめる活動、友達への評価コメント、学習の振り返りなどにおいてタブレット端末を用いて実践していく。	6年社会元寇の学習においては戦さの違いについて絵巻物から読み取れる点をジャムボードを使って出させ、見合うことにより学習内容を展開していた。各学年で、個人それぞれがもっている考えを出すことができ、且つ友達の意見に触れる機会が生まれることで気づきにもなった。また自分の考えを周りに知ってもらうことで納得感を得ることもできた。クラス全体で学習を進めていく1つの手段として、今後もタブレットの活用場面を研究していく。
一人一台整備されるタブレット端末を授業や家庭で日常的に活用できるような取組	【授業での活用】語句調べや意味調べ、課題に関する検索、授業で使用する資料の提示・配付、課題の提示とタブレットを通しての課題提出、AID'リル 【授業外での活用】係などからのアンケート調査、委員会活動での活用 【家庭と学校とでの活用】欠席した児童への連絡、宿題での活用	発達段階に合わせて少しずつタブレット端末に触れ、便利且つ有効に使用できるか試行しているところである。取組の具体的な内容に挙げたことで運用を図っているが、さらに活用の可能性を模索している。一方、課題も出てきている。情報リテラシーやモラルの面、自己の目的に合わせて情報を取り扱う能力の育成が必要である。個人情報や著作権の保護、モラルに関する知識理解の不十分さにより来るネットトラブルに気を付けるよう、低学年から指導していく必要がある。加えて機器の安全な取り扱い方の指導も継続していく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

本校の傾向として、「勉強が好き」「授業への取り組み」において概ね良好な値の学年がある一方で、市より下回るところもある。さらにみていくと「授業は分かる」と答える数値は問題ない。だが、学習に対して積極性や前向きさが低いことがうかがえる。そこで、次年度は「自分の考えをもつこと」、そのために「聴くこと」「聞いたことを受け止め理解すること」を重点において指導していきたいと考える。課題について自分事として捉え、どんなふうに考えるか、思考させていく。それを実現するためには、人の話に耳を傾け聴くことが不可欠である。その両軸を中心にして研究を進めていく。